

さといもの品種「女早生」「蓮葉いも」について

1 試験のねらい

本県におけるさといもの品種は愛知早生が主体となっているが、最近機械選が行われるようになり、丸型でそろいが良く、良質多収の品種が望まれている。

そこで丸いも品種を選定するため、58～59年度に試験を実施した。

2 試験方法

農試の水田転換畑ほ場（礫質灰色低地土灰褐系 松本統）において58年は、蓮葉いも群の女早生、蓮葉いもほか9品種を用い、処理はマルチ、露地、早掘り（マルチ区の一部を早掘り）で品種比較試験を実施、規模は一区6.4㎡、20株、2区制、耕種はマルチ、露地とも畝幅80cm、株間40cmで、は種はマルチ区は4月13日、露地区は4月20日。

59年は、蓮葉いもほか3品種を用い、マルチ栽培で7月～11月まで2週間間隔で7回掘り取り、肥大調査を実施、規模は一区制で、耕種は畝幅100cm、株間40cmで、は種は4月10日。

3 試験結果及び考察

県内で栽培されている子いも用種には、大別して土垂群の愛知早生と石川早生群の石川早生があり、これに蓮葉いも群の女早生、蓮葉いもをいっしょに試験した結果の一部を表-1及び図-1、図-2に示した。

- (1) 生育、草丈は、女早生、蓮葉いもは愛知早生に比べて5～10cm程高かった。
- (2) 規格別比率 9月掘りでは女早生、蓮葉いもはL以上が多く、次いで愛知早生、石川早生はM以下が多い傾向であった。11月掘りでもL以上は女早生、蓮葉いもが多く、両品種とも粒ぞろいが良かった。
- (3) 肥大特性 蓮葉いもは、特に子いもの肥大が良く、孫いもも早くから肥大し、9月には子いもを上回った。
- (4) 品質 いもの型は子いもより孫いもの方が丸型が多く、石川早生、蓮葉いも、愛知早生の順に丸型であり、いもの縦亀裂は10月下旬頃から各品種とも発生が多かった。

4 成果の要約

女早生、蓮葉いも共に、丸型のいもが多く、肥大も愛知早生よりやや早く、マルチ栽培であれば早掘りも可能であり、10月以降の収量も多く多収性であり、いもの数が少なく、粒ぞろいが良く、くずが少ない等の特徴がある。しかし、収穫が遅れるといもの縦亀裂が生じ易い欠点があるので遅くならないようにすることが大切である。

（担当者 野菜部 粕谷光正・山城誠^{※1)}三宅信^{※2)}）

※1) 現作物部、 ※2) 現農業大期大学校

表-1 生育・特性及び収量

年次	栽培型	品 種	草丈※1) いもの形※2) いもの				収 量 kg/a	
			の 指 数 cm (縦÷横)	縦亀裂	いもの 粒ぞろい	9.20 (58・59)	118(58) 115(59)	
58	マルチ	女 早 生	166	1.3	やや多	良	202	345
		蓮葉いも	171	1.3	やや多	良	223	382
		愛知早生	161	1.7	少	並	226	324
		石川早生	151	1.3	少	並	163	283
59	マルチ	蓮葉いも	157	1.3	やや多	良	270	359
		愛知早生	154	1.5	やや多	並	249	316
		石川早生	150	1.2	やや多	並	257	304

注) ※1) 58年：9月8日，59年：9月5日。 ※2) 以下の各形質は58年：11月8日，59年：11月5日

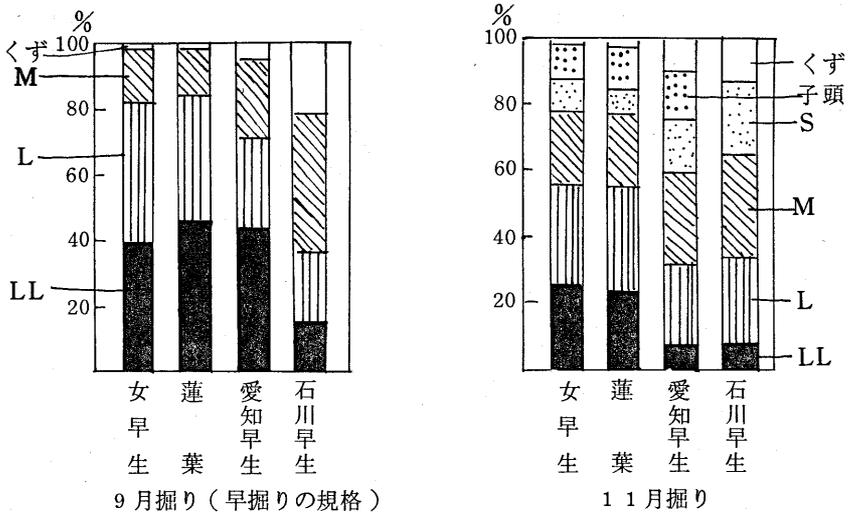


図-1 規格別収量比率 (マルチ)

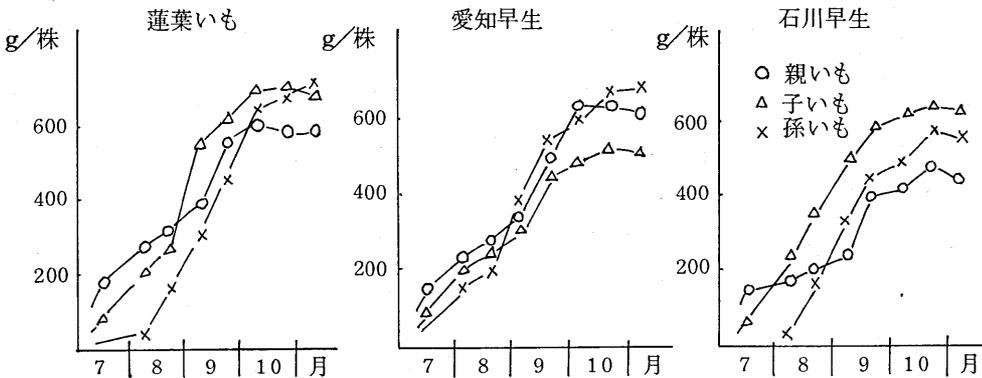


図-2 親，子，孫いもの肥大の状況 (昭59)